



▲井伊谷「新野屋敷」周辺地図(中井古文書より引用)



▲現在の様子。点線で囲まれた部分が新野屋敷があったとされている場所。

History 新野左馬助親矩

キラリを再発見

特別編

いいのや 井伊谷の新野屋敷について

新野地区の新野左馬助屋敷跡はどこにあったか不明ですが、浜松市北区にある井伊谷の屋敷跡は、その位置を確認することができます。井伊谷には、新野左馬助公の^{こうえい}後裔と伝わる家があり、その家に残された記録では「当井伊谷城山麓に居を構え永く此地に居住す、今尚字新野と称する屋敷跡あり敷内広大にして当時の隆盛を偲ばしむ」と記されています。

この屋敷跡は、地図のとおり、現在の井伊谷小学校横から旧引佐町役場に通じる道路までの間にあり、井伊家の家臣団屋敷の一角を占めていました。また、新野屋敷の前には井伊家家老であった小野但馬守の屋敷があることがわかります。小野但馬守は、左馬助が虎松(後の直政)を屋敷内にかくまっていることがわかっていても、左馬助には手を出せなかったと地図からも想像されます。

大河ドラマ「おんな城主 直虎」
応援プロジェクト

照会 社会教育課 ☎0548⑥1129



安全性向上対策工事は、4号機は本年9月、3号機は来年9月の完成を目指し、引き続き安全性を向上させるのです。

改良盛土は、既設の盛り土の上に、セメントを混ぜ強化した土でかさ上げをしたもので、発電所敷地側面からの津波の浸水を防ぐものです。



▲防波壁や改良盛土のイメージ

Atomic

暮らしと原子力

防波壁と原子力発電所敷地北側の丘陵との接続が完成

海拔22mの防波壁東西に作っていた改良盛土の設置が、平成28年3月31日に完了しました。昨年12月に完了した防波壁と一体となり、内閣府が想定する南海トラフ巨大地震における、最大クラスの津波に備えた対策が一区切りしたことになります。

対策を進めていくとのこと